

【本教材について】

- テーマ： 2. 災害から住民の命を守るには
- 単元名： 2 被害を最小限とするための取り組みと地域に対する防災知識の普及
- 所要時間： 60分程度
- 準備：
 1. 班の分だけの模造紙と、参加者の分だけの細マジック(黒)、付箋紙(3色)を準備して下さい。
 2. 適宜、スライドの追加や変更をすることができます。参加者の特性(自主防災組織等の会長が多いか、在職期間が長いかなど)に応じて、内容の追加・削減や修正・変更を検討することで、より良い研修効果が期待できます。
 3. 実際に研修を行う前に、何人かのグループを作り、練習し合う場を設けることもよい研修とするうえで効果的です。

自主防災組織等のリーダー育成研修

災害から住民の命を守るには

被害を最小限とするための
取り組みと
地域に対する防災知識の普及

学習目標と内容

●学習目標

災害時に必要な地域の情報収集と伝達方法を理解し、自主防災組織のリーダーとして、避難の際の要配慮者への支援及び地域の防災意識を向上する方法を理解する

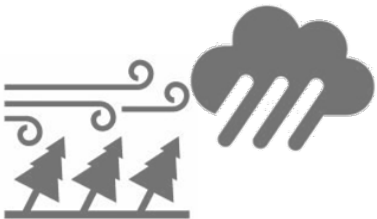
<目次>

- 地域の情報収集・伝達 P. 4～14
- 要配慮者の地域ぐるみでの支援体制 P. 15～33

1. 地域の情報収集・伝達

災害発生前後にとるべき行動(主に自助・共助)

【風水害】



大雨・台風・竜巻等の恐れ

【住民等が取るべき行動】

自助

気象・避難等の情報収集

- ・気象情報や自治体からの避難情報等の情報の収集

自助

共助

公助

指定緊急避難場所等
への避難・避難支援

- ・より安全な場所(指定緊急避難場所や近隣の安全な場所等)への避難
- ・避難行動要支援者の避難を支援

洪水・浸水・
土砂災害・高潮等の発生

共助

公助

指定避難所での避難生活・
在宅避難者支援

- ・避難生活が長期化する場合、避難所運営
- ・在宅避難者で食料や救援物資等の支援が必要な方への支援

災害発生前後にとるべき行動(主に自助・共助)

【地震災害】



地震の発生

自助

身の安全の確保・避難

【住民等が取るべき行動】

- ・身を守る行動、火の始末、自宅の初期消火、家族の安否確認

建物倒壊・火災の発生等

共助

安否確認・被害情報の収集・
消火・救出・救護など

・安全第一

共助

避難誘導・避難支援・
二次被害の防止など

- ・避難場所等への避難
- ・避難行動要支援者の避難支援等
- ・避難時にはブレーカーを切る、ガスを止める

共助

指定避難所での避難生活・
在宅避難者支援

公助

- ・避難生活が長期化する場合、指定避難所の運営
- ・在宅避難者で食料や救援物資等の支援が必要な方への支援



地域のいのちを守るには
自助の力に加えて
共助の力で災害を乗り越える
ことが不可欠です

災害に際しての主な活動内容



情報収集・伝達 安否確認

災害に関する正しい情報を把握しながら次の行動に備えましょう。また、家族の安否確認も行いましょう。



出火防止 初期消火

火災を防ぐために火の元を確認し、ガスの元栓を閉め、出火したとしても小さな炎のうちに消火しましょう。



救出・救護

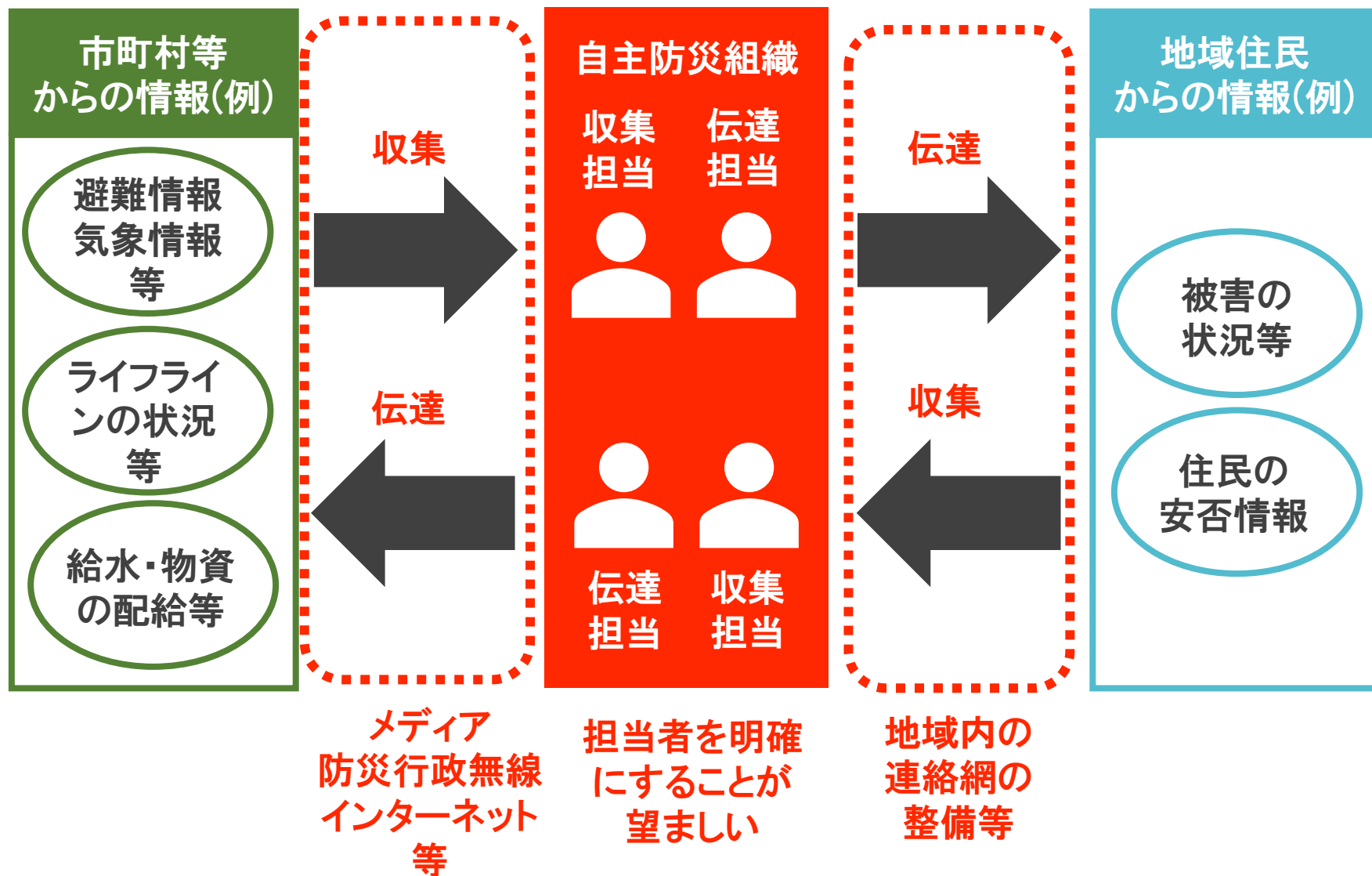
救急車の到着が遅れ救助活動が間に合わないことも考えられます。軽いケガなどの対処法を身に付けておきましょう。



避難誘導

近所で力を合わせながら、配慮や助けが必要な人には声をかけ、一緒に避難誘導をするなどの支援をしましょう。

情報収集・伝達の流れ



【事例】「情報伝達」の先進的な事例

■放送を活用した情報伝達

ゆるじ
(百合地区防災会:兵庫県 豊岡市)

- 自治会独自の屋外放送設備を設置している。台風が来た際に、市から避難指示が出たが指定避難所では間に合わないと、自治会保有の屋外放送設備で「神社の社務所を避難所にする」旨を放送した。
- 一人暮らし高齢者を救出し、安否を確認をした

参考:内閣府防災「地域コミュニティの力を活用した風水害対策の活動事例」

■ブロックごとに被害状況を報告

しみず おりど
(清水区折戸五区自主防災部会:静岡県 静岡市)

- 地区を5ブロックに分け、ブロックリーダーを配置。避難が完了したら、ブロックリーダーが、ブロックの「被害確認状況報告書」を防災リーダーに提出。防災リーダーが取りまとめて、折戸五区防災本部へ報告する。

参考:静岡県「夜間を想定した津波避難訓練」

皆さんの地域では
住民の安否確認の方法は
決まっていますか？

【事例】「安否確認」の先進的な事例①

■目印を利用した安否確認

かぎとり
(鉤取ニュータウン町内会:宮城県 仙台市)

- 住民自ら自宅の玄関に「目印」を掲げて、「無事」を知らせる
- 班長は、地域を見回り、目印が掲げられていない世帯の無事を確認する
- 地震発生後 35 分で、全 129 世帯約 400 人の安否を確認できた

参考:仙台市「東日本大震災時の自主防災活動-あの日-」



■ホワイトボードを利用した安否確認

とつか
(グランフォーレ戸塚ヒルブリーズ自治会:神奈川県 横浜市)

- 管理棟に、各戸の部屋番号が予め記入されたホワイトボードを常設し、災害時には各世帯が自分で安否の状況を書き込む



記入例

安否確認数

居住者数

参考:横浜市危機管理室「ヨコハマの「減災」アイデア集」

【事例】「安否確認」の先進的な事例②

■マップを利用した安否確認

の
(能登半島地震:石川県 輪島市)

- 地域マップは、寝たきりや一人暮らしの高齢者などの所在地を蛍光ペンで色分けして、あらかじめ明らかにした地図
- 民生委員や福祉推進委員が日頃の見まわり活動を通じて、高齢者などの所在地が頭に入っていたこと、顔なじみになっていたことが功を奏した
- 発災直後の避難誘導活動だけでなく、その後の在宅避難者支援(特に要配慮者)などの活動でも役立った



高 齢 者	もも色	ねたきり高齢者 (名前を記入)
	き色	一人暮らし高齢者
	みどり色	その他の高齢者
障 害 者	そら色	障害者 (名前を記入)

図. 地域みまもりマップ (イメージ)

参考:内閣府防災「コラム「地域みまもりマップ」による迅速な安否確認(能登半島地震)」

1. 地域の情報収集・伝達

- まとめ -

- 災害時に、地域のいのちを守るための共助活動を的確に実施するには、地域の状況を理解するための情報を収集し、伝達することが不可欠です
- 地域で情報収集・伝達や安否確認を円滑に行う仕組みを理解し、地域ぐるみで取り組みましょう

2. 要配慮者の地域ぐるみでの支援体制

要配慮者とは

要配慮者

高齢者、障がい者、難病患者、乳幼児、妊産婦、外国人、LGBTなど特に配慮を要する者

避難行動要支援者

要配慮者のうち、災害時等に自ら避難することが難しく、特に支援が必要な者
(介護が必要な高齢者や一定程度の障がいを持つ方など)



災害時の避難支援

避難支援等関係者

避難行動要支援者の避難支援等に関する者

※避難行動要支援者名簿

避難支援には、避難行動要支援者名簿の作成が重要です。

避難行動要支援者名簿は個人情報の取り扱いに注意が必要ですが、全国的に活用が進んでいます。

要配慮者への支援の必要

- これまでの災害では・・・
高齢者などを中心に、逃げ遅れによって被災したり、過酷な避難所生活で病気にかかったりした
- このような**要配慮者**への避難の支援や避難所生活での配慮などは、その人の身近な存在である隣近所同士で助け合うことが基本
- 平常時に地域で支援体制をつくっておくことが必要

**地域の中には、「自力で避難」
することが困難な方々がいらっ
しゃいます**

**どのような方が避難が難しいと
考えられますか？**

実際に被災した要配慮者や要配慮者の家族の体験談を見てください

要配慮者	困りごと・体験談
高齢者	階段を降りられないため、停電でエレベーターが停止したら避難できない。
車いすの人	避難する人と車いすがぶつかり、ひっくり返るのではないかと不安。 車いすのタイヤは空気ゴムなので、がれきやガラスが散らばっているとパンクして動けない。
視覚障がい	避難所は障害物が多い。誰かがいてくれれば安心する。
聴覚障がい	会話はできるが、マイクの音声は聞き取れないので、文字に書いてほしい。口を見て聞いているのでゆっくり話してほしい。
知的障がい等	自閉症は字が読めなくても、図柄のカードで示されると理解できる人が多い。場所・手順など避難所の壁にカードなどが貼ってあるといい。
心身障がい	人が大勢いるところは苦手。静かな空間や、話を聞いてくれる人がいると安心できる。大きな声を出すから周囲の人に迷惑をかけてしまう。



自力避難が困難な人達のことを考える

【個人検討】 <3分>

- 皆さんの周りにいる、自力で避難が困難な方について、どのような方がいるかを青色の付せん紙に書き出して下さい。

身体の不自由な人

寝たきりの人



自力避難が困難な人達のことを考える

【個人検討】 <3分>

- 青色の付せん紙に書き出した、自力で避難が困難な方について、避難するときに、どんなことに困るのかを付せん紙(黄色)に書き出して下さい。

身体の不自
由な人

階段や段差
を移動する
のが大変

素早い行動
が取れない

寝たきりの
人

一人で避難
できない

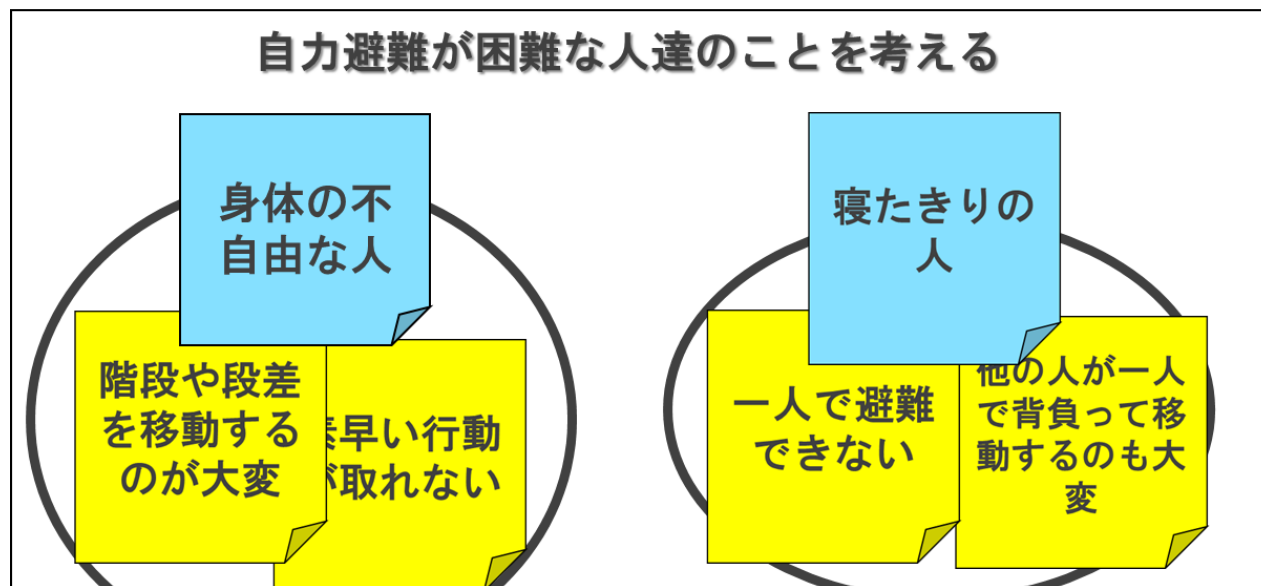
他の人が一人
で背負って移
動するのも大
変



自力避難が困難な人達のことを考える

【グループ検討】 <10分>

1. 1人が、青色の付せん紙と関連する黄色の付せん紙を読み上げ、模造紙に貼ります。
2. 他の人は、同じ内容の付せん紙があったら近くに貼ります
3. 貼り終わったら、次の人の番。(1と2を繰り返す)
4. 全員が貼り終わったら、困る人とその困りごとを、マジック黒丸で囲みます。



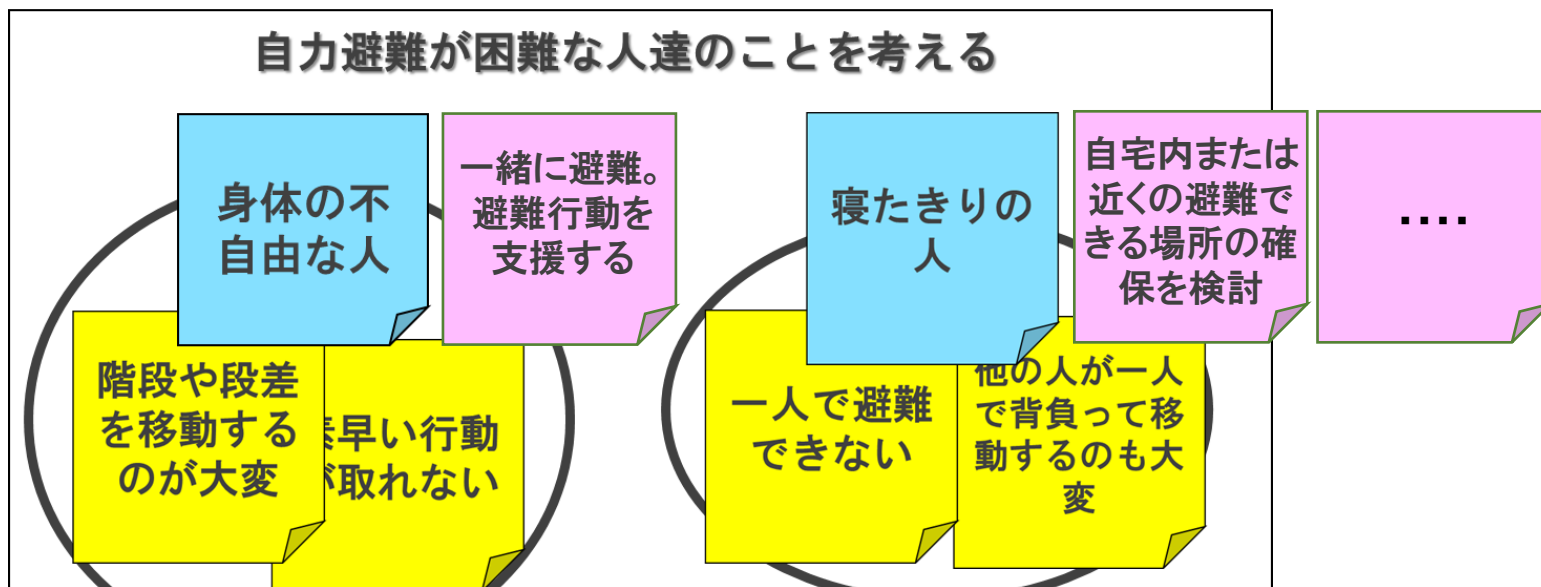


自力避難が困難な人達のことを考える

【グループ検討】 <10分>

- グループで作業した結果を見ながら、自力で避難することが難しい方にどんな支援が必要か、グループで話し合ってみましょう。
- 支援の方法を赤色の付せんに書き出し、青色の付せんの近くに貼って、整理してください。

どんな支援が必要か





ワークのまとめ

- 地域には様々な要配慮者がいます
- 自力での避難が困難な避難行動要支援者に対してもそれぞれの特性に応じた配慮や支援が必要です

要配慮者ごとの避難時や避難生活における配慮や支援①

要配慮者のそれぞれの特性に応じた、配慮や支援が必要になります

困りごとを抱える方	困りごと	必要な配慮・支援(例)
高齢者 (特に要介護高齢者)	- 緊急判断や素早い行動ができない - 足腰が弱く、ちょっとした段差の登り降り等が難しい - 避難所での生活に順応するのが難しく、体調を崩したりすることがある - のどの渇きを認知しにくい - 配給される物資などを個人スペースにためることがある	- 優先的な安否確認と避難誘導 - 自力で移動できる範囲に適切な避難場所が確保できない場合、移動手段の確保 - 避難所の個室と段差の解消 - トイレが近い居住場所の確保 - 居室の温度調整 - 徘徊の症状のある認知症の方は、行方不明にならないように周りの方に声をかけてもらう等の配慮 - 共用の食事スペースなどの用意

要配慮者ごとの避難時や避難生活における配慮や支援②

要配慮者のそれぞれの特性に応じた、配慮や支援が必要になります

困りごとを抱える方	困りごと	必要な配慮・支援(例)
知的障がい者	- 避難先での環境変化に対応できない - 情報が理解できない	- 家族と一緒にいられる、落ち着いたスペース、個別の居室の提供 - 家族を通じた情報等の提供
視覚障がい者	目視による状況把握ができない	- 壁伝いにトイレなどに行くことができるような居住スペースの確保 - 順路に手すりなどを設け、移動経路上に障害物を置かない
聴覚障がい者	- 音声による情報が伝わらない - 外見からは障がいがあることが分かりづらい	- 手話通訳者、要約筆記者等の確保 - 必要な情報は、リーフレットなどの印刷物や書き物によって伝達
精神障がい者	精神的動揺が激しくなる場合がある	- 服薬が継続できることの確認 - 人前で安易に病名等を口にしない - こころのケアチームの巡回や精神科医の診察が受けられるよう調整

要配慮者ごとの避難時や避難生活における配慮や支援③

要配慮者のそれぞれの特性に応じた、配慮や支援が必要になります

困りごとを抱える方	困りごと	必要な配慮・支援(例)
肢体不自由者	- 補助具がない場合、自力での移動が困難 - 自力での衣服の着脱、食事、排泄等が困難な場合が多い	- 本人の意向を確認の上、できるだけ出入口やトイレの近い場所を確保する等移動が少なく済むよう配慮 - 車いす等の補装具及び通れる通路を確保 - 車椅子の補装具の破損への対応、メンテナンスキットの準備
内部障がい者	- 外見からは障がいがあることが分かりづらい - 常時服薬している薬の確保(病状の悪化を懸念)	- 医療機関と連携し専用の装具や薬品などの物品の入手、透析患者への手配 - 簡易オストメイト対応トイレの配備
難病患者	特殊な薬剤や継続的な服薬、医療的ケアが必要	疾患に応じた必要な医薬品や薬物療法等が、継続的に必要な患者に対しての医薬品や医療を確保

要配慮者ごとの避難時や避難生活における配慮や支援④

要配慮者のそれぞれの特性に応じた、配慮や支援が必要になります

困りごとを抱える方	困りごと	必要な配慮・支援(例)
妊産婦 乳幼児	- 素早い行動ができない - 一人で行動ができない - ゆっくり体を伸ばして休む場所がない - 授乳スペースがない - 子どもの夜泣きが気になる - ミルクやおムツが必要	- 介助者や支援者を確保し、避難行動を支援 - 妊産婦や乳幼児用のスペースの確保 - ミルクやおムツの手配 - 適切なアドバイスのできる保育士や保健師の支援要請 - 子どもの遊び場の確保

要配慮者ごとの避難時や避難生活における配慮や支援⑤

要配慮者のそれぞれの特性に応じた、配慮や支援が必要になります

困りごとを抱える方	困りごと	必要な配慮・支援(例)
外国人	- 必要な情報が得られない - 周囲とのコミュニケーションが困難 - 宗教上の理由により、生活習慣の違いがある	- 専門用語の対訳されたカードの用意 - ピクトグラムを活用したコミュニケーション - お祈りが出来る部屋などの用意 - 特定の食物をのぞいた食事の用意 - 様々な言語を話せる人の確保
LGBT	着替え場所やトイレに困る	- 誰でもトイレの確保 - 個室の更衣室の確保 - 当事者や支援者が集まれる空間の確保

【事例】避難支援体制を確保するための取組①

■「**支え合いマップ**」の作成

ほりのうち
(堀之内区自主防災組織:長野県 はくば 白馬村)

○ 誰が誰の安否確認を行うのか支え合いマップ作成で特定

- ・ 対象者(要配慮者)、組長、民生委員等を中心に調整し、それぞれの対象者(要配慮者)に対して、支援者を特定し、マップ上に表示。
- ・ マップの対象者には、常日頃から、民生委員を中心とした見守り活動を実施。
- ・ 平成26年11月に発生した地震発生時(最大震度 6 弱)に、円滑に安否確認や避難支援ができた。

○ 自治会役員と民生委員が連携して マップを作成

○ 毎年更新できる名簿が必要との認識 が浸透した



災害時住民支え合いマップ
づくりの取組

参考:長野県神城断層地震災害記録集

【事例】避難支援体制を確保するための取組②

■「避難支援個別計画」の作成

いずるいし
(出石町会 防災区民組織:東京都 品川区)

○ 支援方法や支援者を計画の中で決めておく

- ・ 避難行動要支援者一人ひとりの支援方法や支援者を事前に決めておく。
- ・ 名簿に掲載している避難行動要支援者全員分の個別計画書を作成した。

○ 継続的な安否確認訓練の実施

- ・ 毎年の防災訓練時に、避難行動要支援者への安否確認訓練を実施している。
- ・ 防災訓練時には個別計画書を活用して、計画内容を検証している。



避難支援個別計画づくりの取組

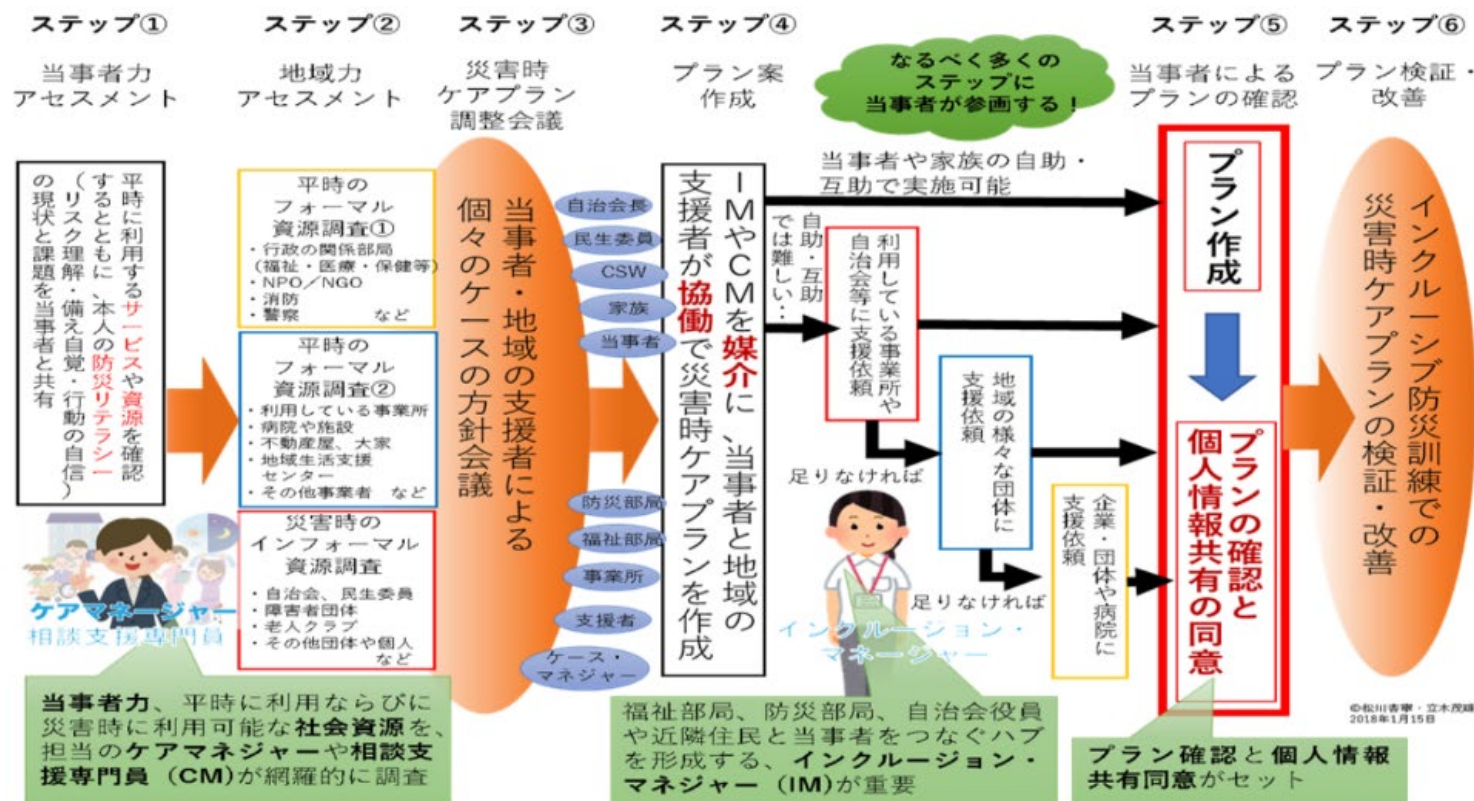
品川区避難支援個別計画書

参考:品川区「避難行動要支援者の支援体制づくりの手引き」

【事例】避難支援体制を確保するための取組③

■「避難支援個別計画」の作成（別府市）

- 平成29年度から、介護支援専門員（ケアマネジャー）や相談支援専門員等の福祉関係者が参加し、当事者や地域、行政等が連携して個別避難計画作成に取り組んでいる。



誰一人取り残さない防災 福祉専門職が参画した個別計画の策定（別府市）

2. 要配慮者の地域ぐるみでの支援体制 - まとめ -

- 地域で協力し合って、避難行動要支援者を把握し、避難を支援しましょう
 - 個人・自主防災組織・自治会など、避難支援者を確保する
 - 複数人で役割分担し、地域の支援者の輪を広げ、避難支援者の負担を軽減する
 - 計画の作成後も、避難訓練を通じて、計画を改善し、避難の実効性の向上を図る

まとめ

- 地域で情報収集・伝達や安否確認を円滑に行う仕組みを理解し、地域ぐるみで取り組みましょう
- 地域で協力し合って、避難行動要支援者を把握し、避難を支援しましょう